

ナミビアの陽射しを浴びて

2021年度1次隊
障害児・者支援
大久保雅弘



日本のみなさんこんにちは。JICA 海外協力隊 2021 年度 1 次隊ナミビア派遣の大久保雅弘です。現在、ナミビアに赴任して2週間が経ちました。この国のことは、まだまだ何も分かっておらず、先輩隊員たちから聞かせていただくローカルな知識や、これまでに取り組まれてきた活動内容の濃さに圧倒されるばかりです。自分もこんな風に活躍できるのか!? 今はまだ先が見えない不安と抑えきれない好奇心で情緒不安定です(笑) だからこそ、このタイミングの私にしかお伝えできないこともあるのではないかと思います。この度筆を取らせていただきました。拙い文章で大変恐縮ですが、どうぞお付き合いください。 Welcome to Namibia ♪

ナミビア_基本情報_JICA 海外協力隊



協力隊には多くの先輩方がいらっしゃり、ナミビアについてもたくさんの情報を残してくださっています。ここではそういった情報よりむしろ、自分が体験して実際に感じたことをベースにお伝えしたいと思います。

① 日本だったら救急搬送!? 高地ならではのビックリ体験

到着してすぐにいつもより呼吸がしづらい事に気が付きました。少し歩いただけで息が上がってしまいます。それもそのはず、ナミビアの首都ウィントフックは標高約 1,700m の高地に位置しています。JICA から新型コロナウイルス感染症対策として貸与されたパルスオキシメーターで測ってみるとなんと SpO2 が 90%!! 高地では低い値が出るのが多いみたいです。(日本では 98~99%) 空気も非常に乾燥していて、洗濯物と鼻の粘膜がよ〜く乾きます。



↑救急車を呼びたくなるほど衝撃的な数値である。

② ここは本当にアフリカ!? まるでヨーロッパな街並みと食事

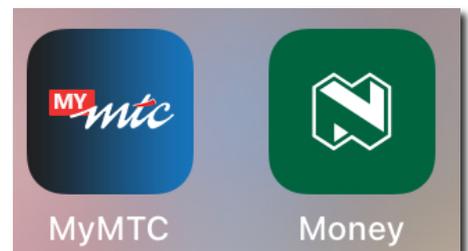


最初の2週間は首都研修です。その間は首都で過ごすのですが、どこへ行っても料理が美味しい! 首都の道路はほぼ全て舗装されていて思い描いていたステレオタイプなアフリカ像が吹っ飛びました。ではなぜ支援が必要なのでしょう? これについては後述いたしますが、支援が必要な国というのは GDP だけを見てはわからないものなのです。ともあれナミビアは美味しい食事が楽しめる素敵な国です。

③ 慣れるまではインターネット無し!? 複雑な通信システムに大苦戦

今の時代、インターネット無しで過ごすことは考えにくいですよね。ましてやコロナ禍を経て、オンラインの活用については必要性を増すばかり。私もいささかネット依存気味の人間であります。そんな私が苦労したのが SIM カードの使い方です。

1週間に使えるのは3GB まで。ただし SIM カードを入れ替えれば、もう3GB 使えます。それぞれの SIM は事前にチャージが必要で、そのためにはアプリを使って…。この辺にしておきますね(笑)



↑左が通信キャリア、右が銀行のアプリ。使いこなせば日本より便利かもしれない。



職種：障害児・者支援

私は、愛知県の特別支援学校で7年間の経験を積みました。今回の派遣では、首都 Windhoek にあるモーレソン特別支援学校に赴任して、特別支援教育の質の向上に努めます。日本の指導要領にあたるシラバスは存在するものの、現場での指導体制はまさにこれから作り上げていくといったところです。

新型コロナウイルス感染症の影響

赴任が延期になり、先の見通しが持てない中、同期になるはずだった仲間の辞退を耳にして自分はこのままで良いのか？と正直悩みました。この世界中を巻き込んだパンデミックが、JICA を始めとした全ての国際協力事業にとって大きなダメージであったことは言うまでもありません。歴史的な大ダメージであったのは事実ですが、そこから再派遣される隊員達の活動が歴史的であることもまた事実なのです。(と自負しております。笑) コロナ禍において、新しい時代がやってきました。良くも悪くも人類は次のステップへと進まざるを得ません。そんな中、国際協力事業もまた、ニューノーマルな形を1から作り上げていく事になるでしょう。大変なことも多かったです、その礎となれること、ちょっぴり誇らしいです。



ナミビアに必要な支援のお話

・ナミビアは貧困国じゃない！？

JICA 海外協力隊を志す上で、多くの方が考えることの一つに「せっかく行くのであれば最貧困の国に行って活躍したい」というものがあるのではないのでしょうか？ 実際に私自身がそうでした。しかし、すでに述べたようにナミビアは道路や水道等の基本的なインフラが整っていて、多くの地域で美味しい食事を食べることができます。GDP も安定的な成長を見せており、2013 年の一人当たり GDP はサブサハラアフリカ諸国の中で第 8 位。いわゆる中進国と呼ばれる国なのです。(参照:ナミビアを知るための 53 章 明石書店)

・見落とされがちなか中進国の支援…。

しかしひとたび所得格差を表すジニ係数に目を向けてみるとその課題が見えてきます。外務省が発行する国別データブックによれば、ナミビアのジニ係数は世界1~2位とも言われており、GDP だけを見ているとわからない「格差」が国内に蔓延しています。「中進国の罠」という言葉があるように、ここから国としてもう一步先へと進むのは結構大変!! ですが最貧困国に優先して支援が行きがちなのは先の私の体験で述べたように自然なことなのかもしれません。(それが悪いという意味では絶対にありません。)

・だからこそ必要なのは教育の力

“Education is the most powerful weapon we can use to change the world.” (教育とは、世界を変えるために用いることができる最も強力な武器である。)というネルソン・マンデラの言葉にあるように、教育は世界を変える力を持っています。まだ赴任したての私には、どんな困難が待ち受けているかは分かりません。ただせっかくなら、少しばかり世界を変えるためのきっかけを作ることができたら良いかと、意気込んでいます。